

直腸結腸癌の肝転移に対する 肝動脈結紮術

Hepatic artery ligation for liver metastasis in colorectal carcinoma: *NJ Petrelli, PA Barcewicz, JT Evans, et al* (Cancer 53: 1347-1353, 1984)

大腸癌の肝転移をどのように治療するのが最善かという問いに対する解答は出されていない。数多くの治療法が提唱されてきたが、まだ prospective randomized trial での報告がないばかりか、豊富な症例数での検討すら報告されていない。著者らは、Roswell Park Memorial Institute で 97 例に行った肝動脈結紮術の成績を報告している。検討対象は、開腹時に肝臓の 50% 以上が転移巣で占められていると判断された結腸癌 65 例と直腸癌 32 例で、6 つのカテゴリーに分けて治療効果を 50% 生存期間で評価した。

(1) 原発巣の部位: 97 例の 50% 生存期間は 9.5 カ月、結腸癌で 9.4

カ月、直腸癌で 7.1 カ月であったが、有意差はなかった。

(2) 肝転移以外の腹腔内転移巣の有無: 肝転移のみを認めた 46 例の 50% 生存期間は 10.1 カ月、肝臓以外にも腹腔内転移巣を認めた 51 例では 6.9 カ月で、両者間に有意差を認めた。

(3) 肺転移の有無: 肺転移を認めなかった 77 例の 50% 生存期間は 9 カ月、肺転移を認めた 20 例では 6.3 カ月 ($p < 0.05$) であった。

(4) 術前の肝機能検査成績: ALP 値が正常値の 2 倍以下であった 43 例の 50% 生存期間は 12.4 カ月であったが、ALP 値が正常値の 2 ~ 4 倍 (29 例) と正常値の 4 倍以上 (25 例) であった症例では、それぞれ 7.1, 6.9 カ月で、正常値の 2 倍以下の症例との間に有意差が認められた。LDH, SGOT 値と 50% 生存期間との関係は、LDH 値を 556 IU/l, SGOT を 60 IU/l で区切ると、それ以下とそれ以上であった症例の間に有意差が認められた。総ビリルビ

ン値は正常値の 2 倍を超えていない限り生存期間への影響は認められなかったが、正常値の 2 倍以上であった症例の 50% 生存期間は 3.7 カ月であった。

(5) performance status (PS): PS 0~1 の 12 例の 50% 生存期間は 12.3 カ月、PS 2~3 であった 76 例では 8.3 カ月であったが、PS 4 (100% ベッド上) の 9 例では 2.6 カ月にすぎなかった。

(6) Dukes 分類: Dukes C の 23 例の 50% 生存期間は Dukes D の 56 例のそれよりも短かったが、これは Dukes D 症例の PS が当初良好であったことが原因であった。

肝転移治療後の予後の判定因子として肝臓以外の転移の有無、術前の肝機能および PS が重要であると結論しており、殊に異なる治療法を比較する場合に留意すべき点であると述べている。

(愛知県がんセンター第 1 内科

伊藤克昭 抄)